

第3章 流域の社会状況

3-1 土地利用

庄内川流域は愛知県、岐阜県の2県にまたがり、名古屋市をはじめ近年市街化が著しい春日井市、尾張旭市、瀬戸市、長久手町、多治見市などの諸都市を擁し、中部圏の社会生活や経済活動が集中するエリアである。

流域に関連する15市13町の土地利用状況は、山林44%、農地（水田・畑）16%、市街地（宅地）38%、その他（水域）2%となっており、山林と農用地で約60%を占めており、市街化率は約40%に達している。

また起伏量の少ない山地であることから頂上付近まで開発利用が進み、特に多くのゴルフ場開発がされており、流域内に愛知県7箇所、岐阜県19箇所の合計26箇所が営業中である。

表-3.1 流域内のゴルフ場一覧(愛知県)

No.	場所	ゴルフ場名
1	名古屋市北区	庄内橋ゴルフ倶楽部
2	名古屋市守山区	緑ヶ丘カンツリークラブ守山ゴルフ
3	瀬戸市	定光寺カントリー倶楽部
4	瀬戸市	品野台カントリークラブ
5	春日井市	オールドレイクゴルフ倶楽部
6	春日井市	春日井カントリークラブ
7	尾張旭市	森林公園ゴルフ場

表-3.2 流域内のゴルフ場一覧(岐阜県)

No.	場所	ゴルフ場名
1	恵那市	笹平カントリー倶楽部
2	恵那市	山岡カントリークラブ
3	恵那市	ニューキャピタルゴルフ倶楽部
4	瑞浪市	瑞陵ゴルフ倶楽部
5	瑞浪市	グリーンヒル瑞浪ゴルフ倶楽部
6	瑞浪市	中仙道ゴルフ倶楽部
7	瑞浪市	クラウンカントリークラブ
8	瑞浪市	みずなみカントリー倶楽部
9	瑞浪市	デイリー瑞浪カントリークラブ
10	瑞浪市	明世カントリークラブ
11	瑞浪市	瑞浪高原ゴルフ倶楽部
12	瑞浪市	瑞浪トーカイカントリークラブ
13	土岐市	名岐国際ゴルフ倶楽部
14	土岐市	新陽カントリー倶楽部
15	可児郡御嵩町	レイクグリーンゴルフ倶楽部
16	可児市	富士カントリー可児クラブ可児ゴルフ場
17	可児市	愛岐カントリー倶楽部桜ヶ池コース
18	多治見市	多治見カントリークラブ
19	多治見市	スプリングフィールドゴルフクラブ

昭和 30 年代より著しく都市開発が進み、特に春日井市の高蔵寺ニュータウン（約 700ha）や多治見市のホワイトタウン（約 120ha）に代表されるように丘陵地、里山の大規模な宅地開発が進んだことが特徴的で、河川沿いや段丘面上に広がる既開発の農用地は市街化されないまま残ってきた。

しかし、名古屋市を中心とする下流域、沿川の市街化がほぼ 100%に達したこともあり、近年まで残されていた中流域の名古屋市守山区、春日井市で、大規模な区画整理が現在進行している。



図-3.1 下流域の沿川(市街化の状況)

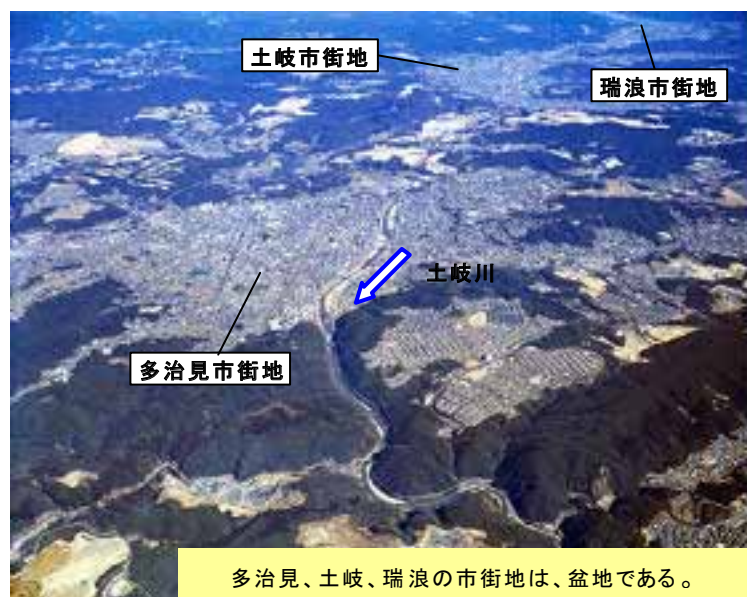
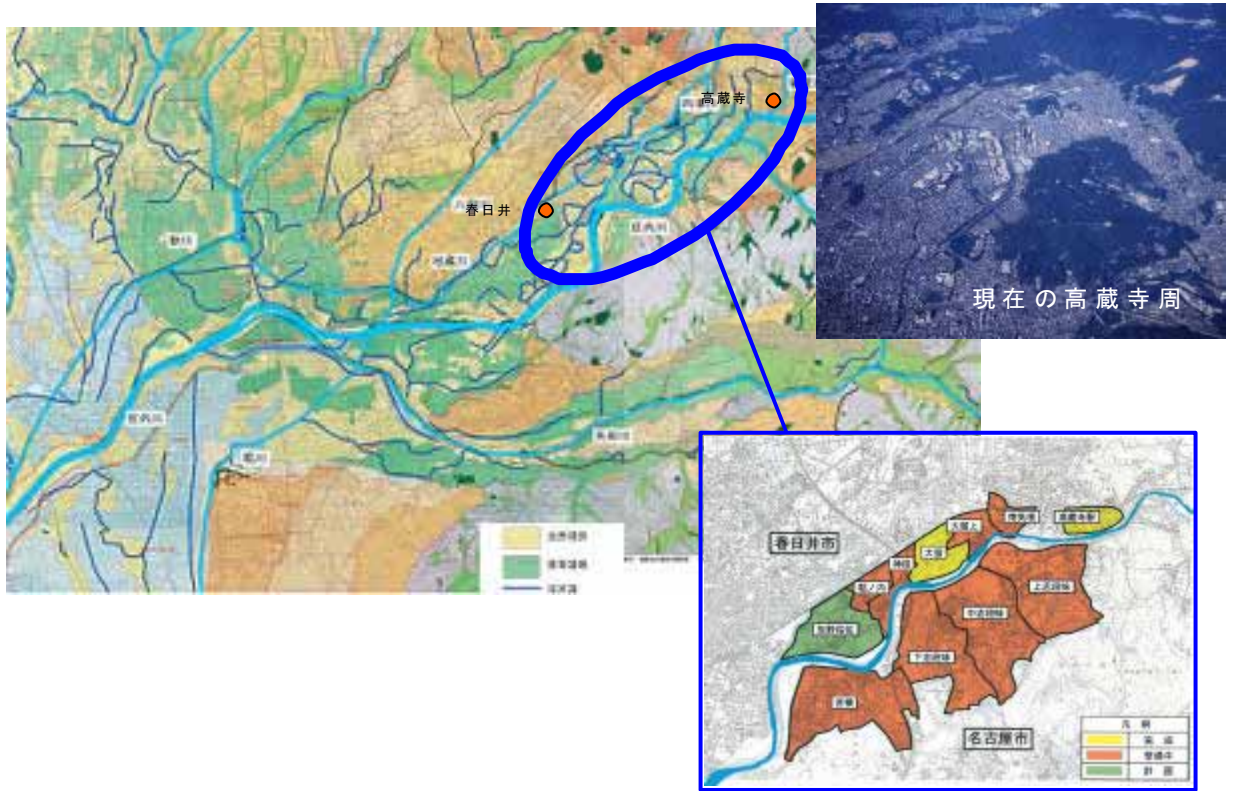
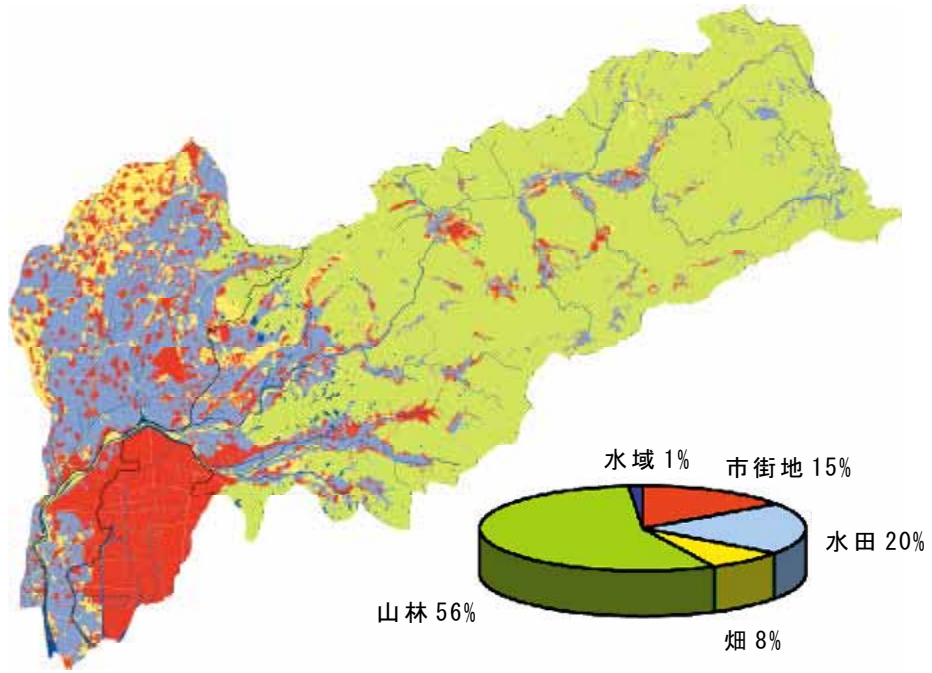


図-3.2 山頂部に造成された住宅地(ホワイトタウン<多治見市>)

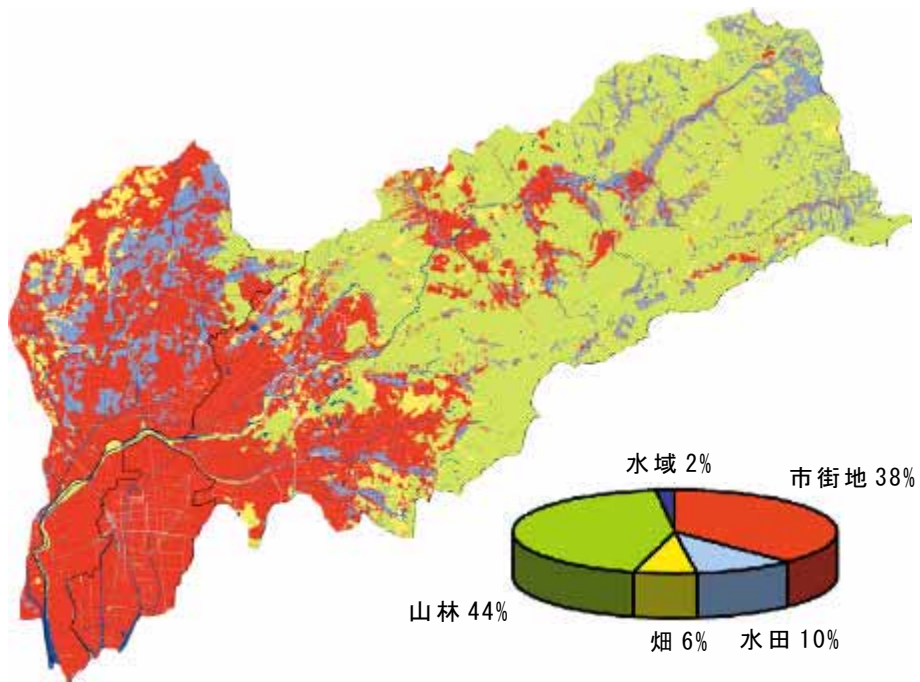


中流域の土地区画整理事業

図-3.3 中流域の土地区画整理事業



流域土地利用の変化(昭和 20 年代)



流域土地利用の変化(平成 12 年)

	昭和 20 年代	平成 12 年
市街地	15%	38%
水田	20%	10%
畑	8%	6%
山林	56%	44%
水域	1%	2%

図-3.4 昭和 20 年代(上)と平成 12 年(下)の流域の土地利用変化

3-2 人口

庄内川流域に含まれる市町は、名古屋市を含む15市13町であり、全体で合わせて約410万人(市町人口単純合計)の人口である。人口の分布を見ると上流域に約35万人(9%)、中流域に約150万人(37%)、下流域に約222万人(55%)が生活しており、名古屋市、春日井市を中心とする中流域、下流域に流域全体の90%以上の人口(約370万人)が集中している。

この50年間の人口推移を見ると、流域全体で人口はほぼ2倍になっており、なかでも中流域は約3倍の増加率を示しており、高蔵寺ニュータウン、菱野団地など中流部に開発された宅地造成地に新たな住民が定着していることがわかる。

同様に多治見市、可児市も人口増加が著しく、これらもベッドタウンとして宅地造成された宅地への人口集中であることがうかがえるが、近年は周辺都市のベッドタウンから名古屋市街近くの区画整理地や都心への回帰も進んでいる。

流域内の人口増加は、都市化、資産集積が進んだことを如実に表しており、特に名古屋市、周辺市町の低平地の321km²が氾濫防御区域になっており、都市型水害による多大な被害が想起される。都市機能、資産が集積している下流域での洪水氾濫を引き起こした東海豪雨の被害は記憶に新しい。

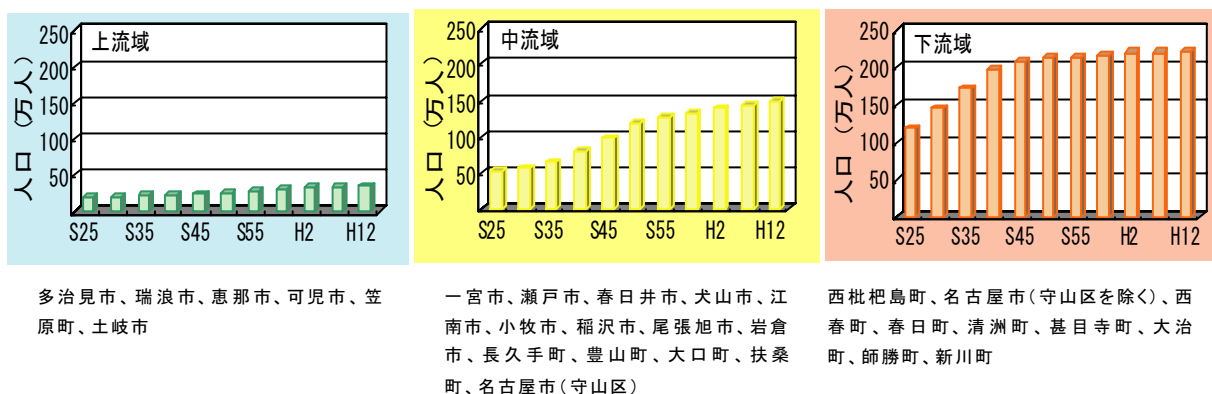


図-3.5 流域市町村の人口推移

表-3.3 流域市町村

上流域	多治見市 可児市	瑞浪市 笠原町	恵那市 土岐市
中流域	一宮市 江南市 岩倉市 扶桑町	瀬戸市 小牧市 長久手町 名古屋市(守山区)	春日井市 犬山市 稲沢市 尾張旭市 豊山町 大口町
下流域	西枇杷島町 清洲町 師勝町	名古屋市(守山区を除く) 新川町	西春町 春日町 甚目寺町 大治町

3-3 産業、経済

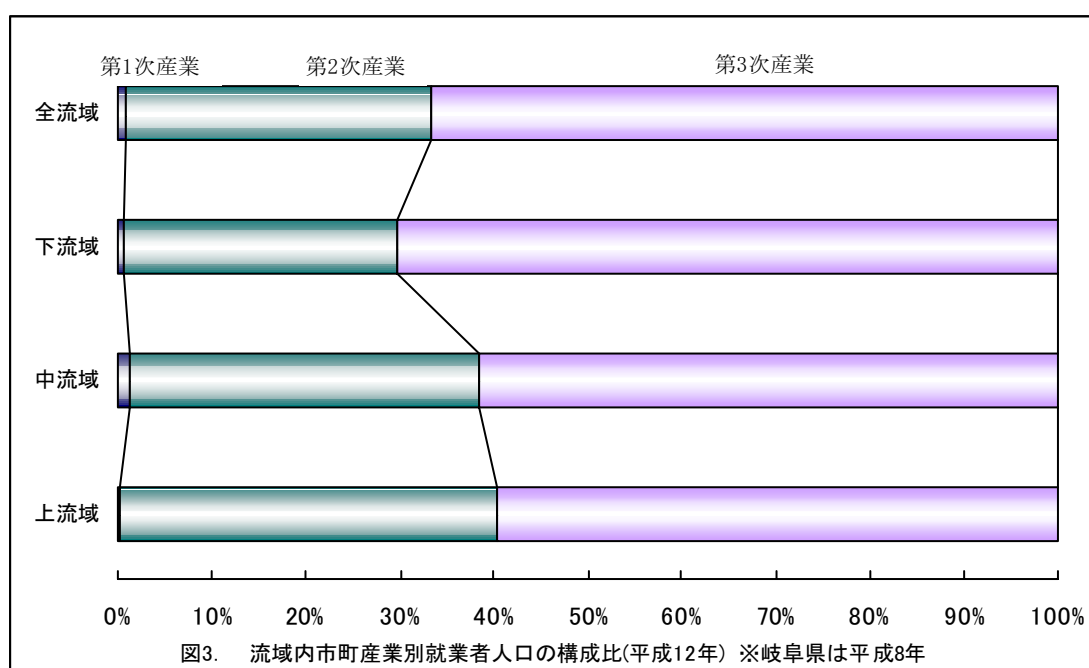
庄内川流域の産業は、伝統産業である陶磁器生産から発祥した窯業・土石製品製造業が盛んな上流域から中流域と、全国シェアの4割近くを占める輸送用機械器具製造業をはじめ、一般機械器具製造業など、我が国経済を牽引してきた製造業が発達した中流域から下流域に大別することが出来る。

産業別従業者数の割合から見ると、第一次産業が約1%、第二次産業が約32%、第3次産業が約67%であり、名古屋市街地を中心とした都市部においては、第3次産業の従業者が多くなっている。

良質な陶土、珪砂などに恵まれた上流域、中流域では、室町時代には製陶が、江戸時代には磁器生産が始められるなど窯業の歴史は古く、現在もその地位は変わっておらず全国シェアで見ると、東濃地域で主に生産される陶磁器製食器が40%、タイルは50%とそれぞれ全国1位となっており、窯業・土石製品製造業の出荷額は愛知県と岐阜県を合わせて、約1.4兆円を有しており、東濃地域はそのなかでも屈指の生産地となっている。

中流域から下流域には、窯業・土石製品製造業、一般機械器具製造業、輸送用機械器具製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業等の産業が発達するとともに、都市近郊の利点を活かしたそ菜類、全国シェア80%程度を占めるサボテンをはじめとする花き類等の生産も盛んである。

特に輸送用機械器具製造業は約16兆円（愛知県全体）の出荷額があり、愛知県における製造業全体の出荷額のほぼ半分を支えており、庄内川流域は、我が国の製造業全体をリードする地域となっている。



出典：愛知県：平成12年、岐阜県：平成8年の統計資料

図-3.6 産業別就業者の構成比

名古屋圏(愛知県、三重県、岐阜県)の製造品出荷額等の産業別全国比を見ると、全国比が高いのは輸送用機器で41.7%(平成13年)を占めている。また、繊維工業も23.8%と高くなっている。その他、プラスチックやゴム製品といった輸送用機器の関連産業、窯業土石も製造業全体の全国比をやや上回っている。特に輸送用機器は、自動車産業界の再編が進む中、名古屋圏に地盤を持つ自動車メーカーの競争力が相対的に高まっていることが、全国比の増加につながっていると考えられる。

表-3.4 名古屋圏の産業構造(平成13年度)

項目	圏域	全国	構成比				対全国比		
			全国	名古屋圏	東京圏	大阪圏	名古屋圏	東京圏	大阪圏
		億円	%	%	%	%	%	%	
合計		2,866,680	100.0	100.0	100.0	100.0	16.4	21.4	13.2
軽工業素材型		559,910	19.5	13.5	14.1	19.0	11.4	15.3	12.8
	食料品	234,540	8.2	4.7	7.7	8.0	9.4	20.0	12.8
	飲料たばこ飼料	109,140	3.8	1.4	2.0	4.0	6.2	11.1	13.7
	繊維工業	27,370	1.0	1.4	0.2	1.5	23.8	4.4	20.9
	木材木製品	29,060	1.0	0.9	0.3	0.8	13.8	6.3	9.9
	パルプ・紙	75,830	2.6	1.5	1.9	2.6	9.4	15.0	13.1
	窯業土石	83,970	2.9	3.6	2.0	2.1	20.5	14.5	9.6
軽工業加工型		361,640	12.6	9.8	18.0	15.5	12.7	30.4	16.2
	衣服その他	30,080	1.0	0.6	0.5	1.6	9.7	9.6	19.8
	家具装備品	25,320	0.9	0.9	0.7	1.0	16.3	17.0	14.3
	出版印刷	125,250	4.4	1.8	10.6	5.5	6.9	52.0	16.6
	プラスチック	99,950	3.5	4.2	2.9	3.4	19.6	17.7	13.0
	ゴム製品	28,970	1.0	1.3	0.8	1.0	20.9	15.9	13.2
	なめし革同製品	6,250	0.2	0.1	0.4	0.5	5.4	40.2	30.5
	その他	45,820	1.6	0.9	2.1	2.5	9.1	27.7	20.6
重工業素材型		498,920	17.4	11.2	20.6	19.9	10.5	25.3	15.1
	化学工業	232,280	8.1	4.0	10.5	10.0	8.1	27.7	16.2
	石油石炭製品	96,130	3.4	1.9	5.0	2.8	9.3	31.9	10.9
	鉄鋼業	112,020	3.9	3.8	3.4	5.4	15.8	18.5	18.4
	非鉄金属	58,490	2.0	1.5	1.7	1.7	12.0	18.2	10.9
重工業加工型		1,446,210	50.5	65.6	47.5	45.6	21.4	20.1	11.9
	金属製品	145,450	5.1	4.1	4.6	7.3	13.3	19.2	19.0
	一般機械	282,100	9.8	9.1	8.9	12.6	15.3	19.3	16.9
	電気機器	524,660	18.3	11.4	19.8	18.1	10.2	23.1	13.1
	輸送用機器	451,520	15.8	40.0	12.3	6.3	41.7	16.7	5.2
	精密機器	40,000	1.4	0.7	1.9	1.3	8.8	29.2	12.1
	武器	2,480	0.1	0.3	0.0	0.0	57.4	4.4	0.0

出典：産業の名古屋2003(名古屋市)

3-4 交通

庄内川は、広い街路を計画的に整備した名古屋市を取り巻くように流れることから、堤防天端を古くから堤防兼用道路として利用してきているが、他の路線整備に伴い河川利用や河川環境への要請にあわせた整備が必要になってきている。

下流域には、東京と大阪の間に位置する大都市である名古屋を中心として、東西方向等の交通網を形成する東名、名神、第二東名、第二名神などの高速道路と東海道新幹線など国土交通重要幹線が通っている。また、中央自動車道、東名阪自動車道、東海北陸自動車道、名濃道路、名岐道路など都市間を連絡する幹線道路が放射状に、空港、港湾と都市内と連結する名古屋都市高速道路、名古屋環状2号線が整備されている。

また、中部圏の空の玄関である名古屋空港があるが、知多半島常滑市沖に24時間運用可能な海上空港として、中部国際空港「セントレア」が完成し、今後活用が期待されている。

中流域には北尾張中央道、上流域には名古屋大都市地域周辺における環状方向等の連携を支える東海環状自動車道が整備されつつあり、庄内川流域は、高速交通ネットワークの中にすっぽり収まり、ますますの発展が期待されている。

河口域には、国内外の諸都市を結ぶ海の玄関としての名古屋港があり、外国貿易貨物量は、昭和57年(1982)から5大港(東京、横浜、名古屋、大阪、神戸)の中でもトップであり、総取扱貨物量においても6年連続第1位になるなど、スーパー中枢国際港湾としての立場を誇っている。

庄内川流域は、東海道沿いの太平洋ベルト地帯を中心とした国土軸に属しており、日本列島の中央に位置するという地理的優位性を持っていることから、厚く多様な産業集積を支える大都市圏や地方との、また国際的な人流、物流両面の交通体系の要として今後も発展が期待されている。

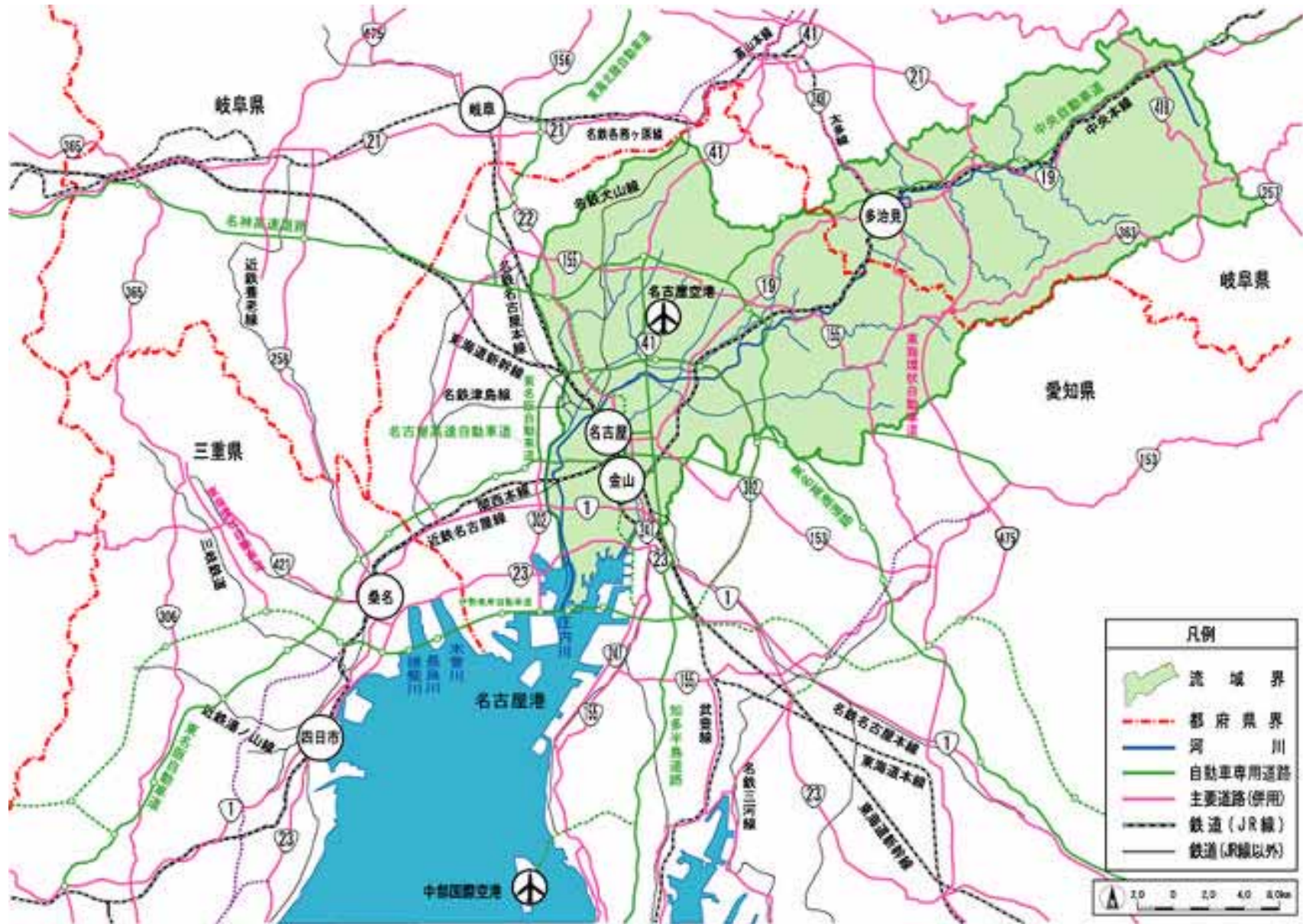


図-3.7 庄内川流域の交通網図



図-3.8 名古屋駅1日の利用者数は約53万人



図-3.9 駅前中心に広がる地下街



図-3.10 地下鉄名古屋駅1日の利用者数は約15万人